

特定作物統計調査

令和4年産小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量

— 小豆の収穫量は前年産並み、いんげん及びらっかせいの収穫量は前年産に比べ増加 —

【調査結果の概要】

1 小豆

全国の小豆の収穫量は4万2,100 tで、前年産並みとなった。

2 いんげん

全国はいんげんの収穫量は8,530 tで、前年産に比べ1,330 t（18%）増加した。

これは、主産地である北海道において、10 a 当たり収量が前年産を上回ったためである。

3 らっかせい

全国のらっかせいの収穫量は1万7,500 tで、前年産に比べ2,700 t（18%）増加した。

これは、主産地である千葉県において、10 a 当たり収量が前年産を上回ったためである。

表 令和4年産小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量（全国）

| 区分 | 作付面積 | 10 a 当たり収量 | 収穫量 | 前年産との比較 | | | | | | (参考) | | |
|-------|--------|------------|--------|---------|-----|------------|-----|-------|---------------|--------------|-----|-----|
| | | | | 作付面積 | | 10 a 当たり収量 | 収穫量 | | 10 a 当たり平均収量対 | 10 a 当たり平均収量 | | |
| | | | | 対差 | 対比 | 対比 | 対差 | 対比 | | | | |
| ha | kg | t | ha | % | % | t | % | % | kg | | | |
| 小豆 | 23,200 | 181 | 42,100 | △ | 100 | 100 | 100 | △ | 100 | 100 | 89 | 204 |
| いんげん | 6,220 | 137 | 8,530 | △ | 910 | 87 | 136 | 1,330 | 118 | 94 | 146 | |
| らっかせい | 5,870 | 298 | 17,500 | △ | 150 | 98 | 121 | 2,700 | 118 | 132 | 226 | |

注：「(参考) 10 a 当たり平均収量対比」とは、10 a 当たり平均収量（原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10 a 当たり収量の比率である。

- 本調査は各作物の「乾燥子実」を対象に調査している。
- 「乾燥子実」とは、食用を目的に未成熟（完熟期以前）で収穫されるもの（さやいんげん等）を除いたものをいう。なお、らっかせいはさやつきのものをいう。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tokutei_sakumotu/#y3 】

◎ 調査結果の主な利活用

- ・ 小豆、いんげん及びらっかせいの関税割当数量の設定のための資料
- ・ 小豆、いんげん及びらっかせいに関する生産振興に資する各種事業の推進のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく畑作物共済事業の適切な運営のための資料

◎ 累年データ

小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の作付面積、
10 a 当たり収量及び収穫量の推移（全国）

| 区 分 | 小豆 | | | いんげん | | |
|--------|--------|-----------------|--------|--------|-----------------|--------|
| | 作付面積 | 10 a 当たり 収 量 | 収 穫 量 | 作付面積 | 10 a 当たり 収 量 | 収 穫 量 |
| | ha | kg | t | ha | kg | t |
| 平成25年産 | 32,300 | 211 | 68,000 | 9,120 | 168 | 15,300 |
| 26 | 32,000 | 240 | 76,800 | 9,260 | 221 | 20,500 |
| 27 | 27,300 | 233 | 63,700 | 10,200 | 250 | 25,500 |
| 28 | 21,300 | 138 | 29,500 | 8,560 | 66 | 5,650 |
| 29 | 22,700 | 235 | 53,400 | 7,150 | 236 | 16,900 |
| 30 | 23,700 | 178 | 42,100 | 7,350 | 133 | 9,760 |
| 令和元 | 25,500 | 232 | 59,100 | 6,860 | 195 | 13,400 |
| 2 | 26,600 | 195 | 51,900 | 7,370 | 67 | 4,920 |
| 3 | 23,300 | 181 | 42,200 | 7,130 | 101 | 7,200 |
| 4（概数） | 23,200 | 181 | 42,100 | 6,220 | 137 | 8,530 |

| 区 分 | らっかせい | | |
|--------|-------|-----------------|--------|
| | 作付面積 | 10 a 当たり 収 量 | 収 穫 量 |
| | ha | kg | t |
| 平成25年産 | 6,970 | 232 | 16,200 |
| 26 | 6,840 | 235 | 16,100 |
| 27 | 6,700 | 184 | 12,300 |
| 28 | 6,550 | 237 | 15,500 |
| 29 | 6,420 | 240 | 15,400 |
| 30 | 6,370 | 245 | 15,600 |
| 令和元 | 6,330 | 196 | 12,400 |
| 2 | 6,220 | 212 | 13,200 |
| 3 | 6,020 | 246 | 14,800 |
| 4（概数） | 5,870 | 298 | 17,500 |

資料：農林水産省統計部「作物統計」

【調査結果】

1 小豆（乾燥子実）

(1) 作付面積

全国の作付面積は2万3,200haで、前年産並みとなった。

(2) 10a当たり収量

全国の10a当たり収量は181kgで、前年産並みとなった。

なお、10a当たり平均収量対比は、89%となった。

(3) 収穫量

全国の収穫量は4万2,100tで、前年産並みとなった。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の93%を占めている。

図1 小豆の10a当たり収量及び収穫量（全国）

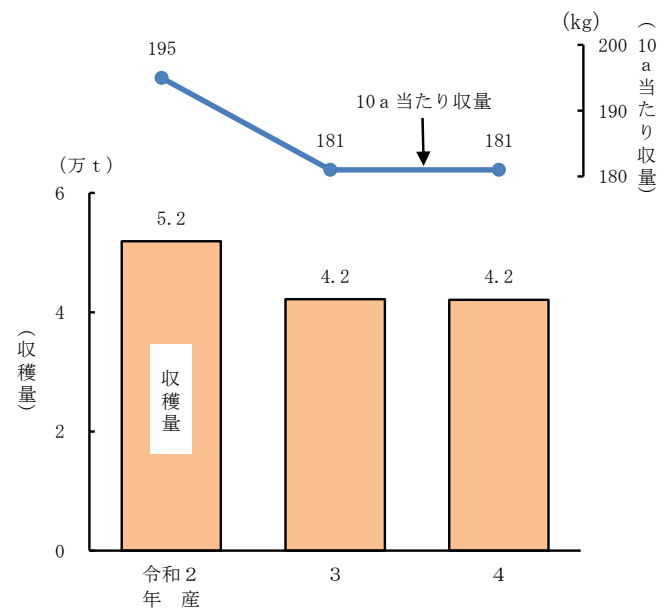
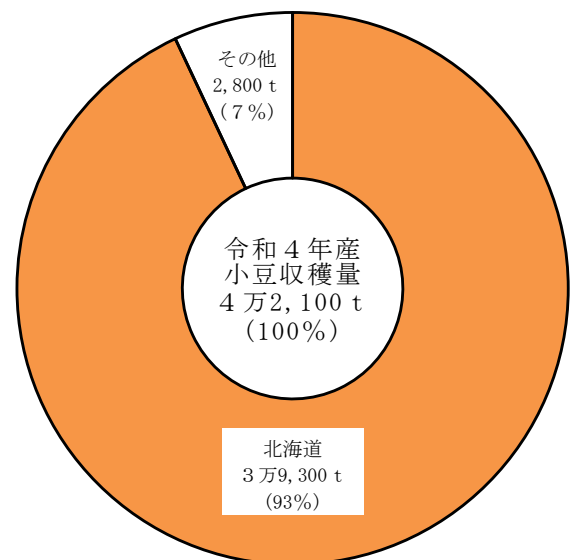


図2 令和4年産小豆の都道府県別収穫量及び割合（全国）



2 いんげん（乾燥子実）

(1) 作付面積

全国の作付面積は6,220haで、前年産に比べ910ha（13%）減少した。

これは、主産地である北海道において、他作物への転換等があったためである。

(2) 10 a 当たり収量

全国の10 a 当たり収量は137kgで、前年産を36%上回った。

これは、主産地である北海道において、8月の多雨・日照不足の影響により、小粒傾向となったものの、作柄の悪かった前年産の10 a 当たり収量を上回ったためである。

なお、10 a 当たり平均収量対比は、94%となった。

(3) 収穫量

全国の収穫量は8,530 tで、前年産に比べ1,330 t（18%）増加した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の95%を占めている。

図3 いんげんの10 a 当たり収量及び収穫量（全国）

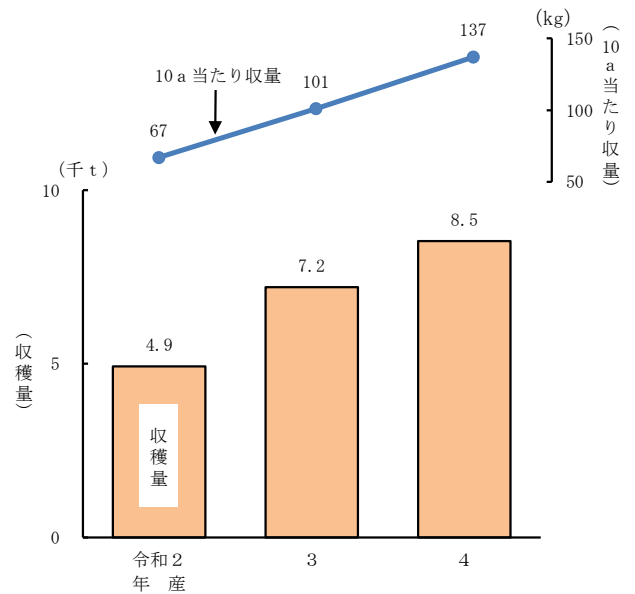
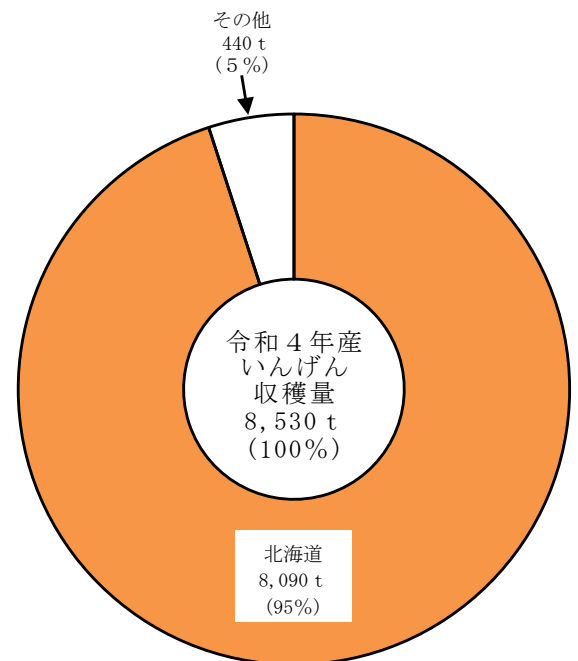


図4 令和4年産いんげんの都道府県別収穫量及び割合（全国）



3 らっかせい（乾燥子実）

(1) 作付面積

全国の作付面積は5,870haで、前年産に比べ150ha（2%）減少した。

(2) 10 a 当たり収量

全国の10 a 当たり収量は298kgで、前年産を21%上回った。

これは、主産地である千葉県において、天候に恵まれ生育が順調で、さや数がやや多く、粒の肥大も良好であったためである。

なお、10 a 当たり平均収量対比は、132%となった。

(3) 収穫量

全国の収穫量は1万7,500 tで、前年産に比べ2,700 t（18%）増加した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、千葉県が全国の85%を占めている。

図5 らっかせいの10 a 当たり収量及び収穫量（全国）

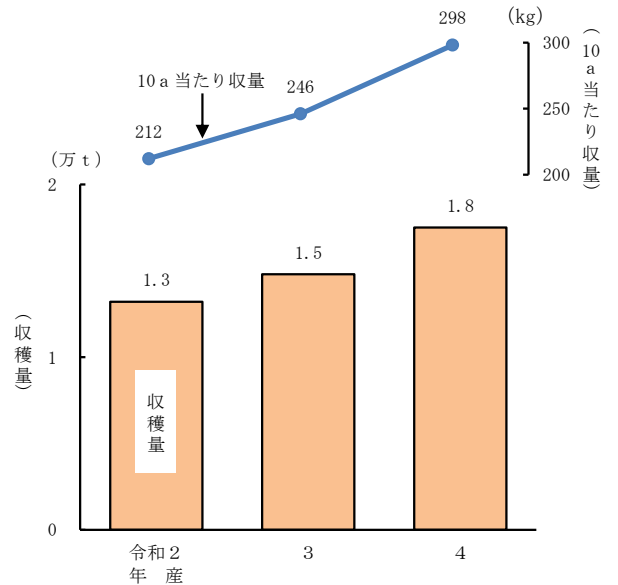
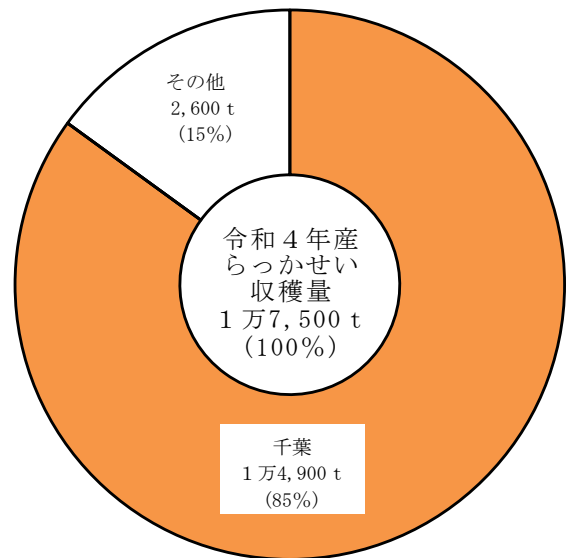


図6 令和4年産らっかせいの都道府県別収穫量及び割合（全国）



【統計表】

1 令和4年産小豆（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

| 区 分 | 作付面積 | 10 a 当たり 収 量 | 収 穫 量 | 前 年 産 と の 比 較 | | | | | | (参 考) | | |
|-----------|----------------------|-------------------|---------------------|---------------|-----|------------------|-------|-----|---------------------------|----------------------|-----|-------------------|
| | | | | 作 付 面 積 | | 10 a 当 たり 収 量 | 収 穫 量 | | 10 a 当 たり 平 均 収 量 対 | 10 a 当 たり 平 均 収 量 | | |
| | | | | 対 差 | 対 比 | 対 比 | 対 差 | 対 比 | | | | |
| 全 国 | 23,200 ^{ha} | 181 ^{kg} | 42,100 ^t | △ | 100 | 100 | 100 | △ | 100 | 100 | 89 | 204 ^{kg} |
| う ち 北 海 道 | 19,100 | 206 | 39,300 | | 100 | 101 | 100 | | 200 | 101 | 88 | 234 |
| う ち 滋 賀 | 164 | 97 | 159 | △ | 25 | 87 | 90 | △ | 45 | 78 | 123 | 79 |
| う ち 京 都 | 458 | 72 | 330 | | 0 | 100 | 91 | △ | 32 | 91 | 122 | 59 |

注：1 令和4年産調査については、作付面積調査及び収穫量調査ともに主産県を対象に調査を実施した。

2 主産県とは、直近の作付面積調査の全国調査年（令和3年産）における作付面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県及び畑作物共済事業（らっかせいを除く。）を実施する都道府県である。

3 全国値については、主産県の調査結果を基に推計した。

4 （参考）10a当たり平均収量対比とは、10a当たり平均収量（原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10a当たり収量の比率である（以下の各統計表において同じ。）。

2 令和4年産いんげん（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

| 区 分 | 作付面積 | 10 a 当たり 収 量 | 収 穫 量 | 前 年 産 と の 比 較 | | | | | | (参 考) | | |
|-----------|---------------------|-------------------|--------------------|---------------|-----|------------------|-------|-----|---------------------------|----------------------|----|-------------------|
| | | | | 作 付 面 積 | | 10 a 当 たり 収 量 | 収 穫 量 | | 10 a 当 たり 平 均 収 量 対 | 10 a 当 たり 平 均 収 量 | | |
| | | | | 対 差 | 対 比 | 対 比 | 対 差 | 対 比 | | | | |
| 全 国 | 6,220 ^{ha} | 137 ^{kg} | 8,530 ^t | △ | 910 | 87 | 136 | | 1,330 | 118 | 94 | 146 ^{kg} |
| う ち 北 海 道 | 5,780 | 140 | 8,090 | △ | 880 | 87 | 136 | | 1,230 | 118 | 93 | 151 |
| う ち 金 時 | 4,160 | 121 | 5,030 | △ | 670 | 86 | 159 | | 1,360 | 137 | 89 | 136 |
| う ち 手 亡 | 1,320 | 195 | 2,570 | △ | 180 | 88 | 101 | △ | 330 | 89 | 92 | 213 |

注：「金時」、「手亡」とはいんげんの種類を示す。なお、「きたロツン」を含んでいない。

3 令和4年産らっかせい（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

| 区 分 | 作付面積 | 10 a 当たり 収 量 | 収 穫 量 | 前 年 産 と の 比 較 | | | | | | (参 考) | | |
|---------|---------------------|-------------------|---------------------|---------------|-----|------------------|-------|-----|---------------------------|----------------------|-----|-------------------|
| | | | | 作 付 面 積 | | 10 a 当 たり 収 量 | 収 穫 量 | | 10 a 当 たり 平 均 収 量 対 | 10 a 当 たり 平 均 収 量 | | |
| | | | | 対 差 | 対 比 | 対 比 | 対 差 | 対 比 | | | | |
| 全 国 | 5,870 ^{ha} | 298 ^{kg} | 17,500 ^t | △ | 150 | 98 | 121 | | 2,700 | 118 | 132 | 226 ^{kg} |
| う ち 千 葉 | 4,790 | 312 | 14,900 | △ | 100 | 98 | 122 | | 2,400 | 119 | 135 | 231 |

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、特定作物統計調査の作付面積調査及び収穫量調査として実施したものであり、豆類の生産に関する実態を明らかにすることにより、小豆、いんげん及びらっかせいの関税割当数量の設定、小豆、いんげん及びらっかせいに関する生産振興に資する各種事業の推進、農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく畑作物共済事業の適切な運営等のための農政の基礎資料を整備することを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

令和4年産については、主産県を対象に調査を行った。

なお、全ての都道府県を調査の範囲とする全国調査を作付面積調査にあつては3年ごと（直近は令和3年産）、収穫量調査にあつては6年ごと（直近は平成30年産）に実施しており、全国調査以外の年にあつては、直近の全国調査年（令和3年産）における全国作付面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県及び畑作物共済事業（らっかせいを除く。）を実施する都道府県を調査の範囲（主産県）としている。

(2) 調査対象者の選定

ア 作付面積調査

関係団体調査（全数調査）

調査対象作物を取り扱っている全ての農協等の関係団体とした。

イ 収穫量調査

(ア) 関係団体調査（全数調査）

調査対象作物を取り扱っている全ての農協等の関係団体とした。

(イ) 標本経営体調査（標本調査）

都道府県ごとの収穫量に占める関係団体の取扱数量の割合が8割に満たない都道府県については、2020年農林業センサスにおいて、当該作物を販売目的で作付けし、関係団体以外に出荷した農林業経営体から品目別作付面積の規模に比例した確率比例抽出法により、標本経営体を抽出した。

ただし、いんげんについては、主産県の北海道において、関係団体の取扱数量の割合が8割以上であることから、標本経営体調査を実施していない。

なお、標本の大きさ（標本経営体数）については、10a当たり収量を指標とした全国の目標精度（おおむね3%）が確保されるよう、調査対象作物の全国収穫量に占める都道府県ごとのシェアを考慮して設定した10a当たり収量に関する都道府県別の目標精度（3～20%）を設定し、必要な標本経営体数を算出した。

(3) 調査対象者数
収穫量調査

| | 関係団体調査 | | | 標本経営体調査 | | | | |
|-------|----------|----------------|--------------------|------------------|-----------------|--------------|----------------|--------------------|
| | 団体数 ① | 有効 回答数 ② | 有効 回答率 ③=②/① | 母集団 の大きさ ④ | 標本の 大きさ ⑤ | 抽出率 ⑥=⑤/④ | 有効 回答数 ⑦ | 有効 回答率 ⑧=⑦/⑤ |
| | 団体 | 団体 | % | 経営体 | 経営体 | % | 経営体 | % |
| 小豆 | 118 | 105 | 89.0 | 2,403 | 65 | 2.7 | 31 | 47.7 |
| いんげん | 48 | 40 | 83.3 | - | - | - | - | - |
| らっかせい | 3 | 3 | 100.0 | 2,131 | 300 | 14.1 | 171 | 57.0 |

注：1 「有効回答数」とは、集計に用いた関係団体及び標本経営体の数であり、回答はあったが、当年産において作付けがなかった関係団体及び標本経営体は含まれていない。

2 いんげんは、主産県の北海道において、関係団体の取扱数量の割合が8割以上であることから、標本経営体調査を実施していない。

3 調査事項

(1) 作付面積調査

作付面積

(2) 収穫量調査

ア 関係団体調査

作付面積及び集荷量

イ 標本経営体調査

作付面積、出荷量及び「自家用、無償の贈答用、種子用等の量」

4 調査期日

(1) 作付面積調査

令和4年9月1日現在

(2) 収穫量調査

収穫期

5 調査方法

(1) 作付面積調査

関係団体に対する往復郵送調査又はオンライン調査により行った。

(2) 収穫量調査

関係団体に対する往復郵送調査又はオンライン調査及び標本経営体に対する往復郵送調査により行った。

6 集計方法

(1) 都道府県値

ア 作付面積調査

関係団体調査結果を基に、職員又は統計調査員による巡回・見積り及び職員による情報収集により補完している。

イ 収穫量調査

関係団体調査及び標本経営体調査の結果から得られた10a当たり収量に作付面積を乗じて算出し、必要に応じて職員又は統計調査員による巡回及び職員による情報収集により補完している。

(2) 全国値

ア 作付面積調査

主産県の作付面積の合計値に、推計により算出した主産県以外の都道府県（以下「非主産県」という。）の作付面積の計を合計し算出した。

非主産県の作付面積は、直近の全国調査年（令和3年産）における非主産県の作付面積の計と前々回の全国調査年（平成30年産）における非主産県の作付面積の計を用いて1年当たりの変動率を算出し、この変動率を直近の全国調査年からの経過年数（1年）に応じて非主産県の作付面積の計に乗ずることにより推計した。

イ 収穫量調査

主産県の収穫量に、次の式により推計した非主産県の収穫量の計を合計し算出した。

$$\begin{aligned} \text{非主産県の} &= \text{直近の全国調査年（平成30年産）} && \times && \text{主産県の10a当たり} && \times && \text{令和4年産の非主産県} \\ \text{収穫量} & \text{における非主産県の10a当たり収量} && && \text{収量の比率(x)} && && \text{の作付面積(y)} \\ x &= \text{令和4年産の主産県の10a当たり収量} \div \text{全国調査年（平成30年産）の主産県の10a当たり収量} \\ y &= \text{直近の全国調査年（令和3年産）における非主産県の作付面積の計と前々回の全国調査年（平成30年産）} \\ & \text{における非主産県の作付面積の計を用いて1年当たりの変動率を算出し、この変動率を直近の全国調査年} \\ & \text{からの経過年数（1年）に応じて非主産県の作付面積の計に乗ずることにより推計} \end{aligned}$$

7 調査の精度

収穫量調査

(1) 小豆

主要な都道府県において、標本経営体調査を行っていないこと等から、実績精度の算出は行っていない。

(2) いんげん

関係団体に対する全数調査結果を用いて算出していることから、実績精度の算出は行っていない。

(3) らっかせい

本調査結果（主産県計）の10a当たり収量を指標とした実績精度を標準誤差率（標準誤差の推定値÷推定値×100）により示すと、3.1%である。

8 用語の解説

(1) 「乾燥子実」とは、食用を目的に未成熟（完熟期以前）で収穫されるもの（さやいんげん等）を除いたものをいう。

なお、らっかせいはさやつきのものをいう。

(2) 「作付面積」とは、は種又は植付けをしてからおおむね1年以内に収穫され、複数年にわたる収穫ができない非永年性作物を作付けしている面積をいう。

(3) 「収穫量」とは、収穫し、収納（保存又は販売できる状態にして収納舎等に入れることをいう。）がされた一定の基準（品質・規格）以上のものの量をいう。

(4) 「10a当たり収量」とは、実際に収穫された10a当たりの収穫量をいう。

(5) 「10a当たり平均収量」とは、原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値をいう。

(6) 「10a当たり平均収量対比」とは、10a当たり平均収量に対する当年産の10a当たり収量の比率をいう。

9 利用上の注意

(1) 統計数値については、次の方法によって四捨五入している。

| 原 数 | | 5桁 (1万) | 4桁 (1,000) | 3桁以下 (100) |
|---------------|----------------|------------|---------------|---------------|
| 四捨五入する桁数(下から) | | 2桁 | 1桁 | 四捨五入しない |
| 例 | 四捨五入する前(原数) | 12,345 | 1,234 | 123 |
| | 四捨五入した数値(統計数値) | 12,300 | 1,230 | 123 |

(2) 表中に用いた記号は次のとおりである。

「0」： 増減がないもの

「△」： 負数又は減少したもの

(3) この統計表に掲載された数値を他に転載する場合は、「令和4年産小豆、いんげん及びらっかせい(乾燥子実)の収穫量」(農林水産省)による旨を記載してください。

10 その他

この資料の収穫量の数値は、概数値である。確定した詳細な数値は、ホームページに掲載(令和5年6月予定)する。

なお、公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせする。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「いも・雑穀・豆」の「特定作物統計調査」で御覧いただけます。

【 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tokutei_sakumotu/#y3 】

【関連リンク】

農林水産施策関係ページ：農林水産省>組織別から探す>大臣官房

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/>

農業生産振興関係ページ：農林水産省>組織別から探す>農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線 3682

（直通）03-3502-5687

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 統計広報推進班

電話：（代表）03-3502-8111 内線 3589

（直通）03-6744-2037



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>